第 8 回 中国政治・メディア実証研究会

量的テキスト分析から迫る中国の政治宣伝と情報統制
―イデオロギー、対外姿勢、そして感情―

近年、権威主義体制が検閲やプロパガンダなどの情報操作によって体制支配を維持する戦略が注目されている（Gehlbach and Sonin 2014；Guriev and Treisman 2019； Guriev and Treisman 2022)。中国共産党および政府は、長年にわたり新聞、テレビなどの伝統的なメディアを通じてイデオロギーを日常生活に浸透させてきた。近年は Weibo をはじめとするソーシャルメディアも積極的に利用し、情報管理と世論誘導の双方を統合するような形態へと進化しつつある。例えば、ソーシャルメディアをオンライン上でのナショナリズムの増幅装置として利用しており、外交的摩擦や政治イベントに応じて反応が急激に高まることがみられている。このように、中国では、①国家による上からの宣伝、②外国に対する姿勢やイメージ操作、③オンライン空間における下からの大衆の感情的な動員、が同時にみられ、国内宣伝、外交戦略、大衆動員が同時に作用する権威主義体制ならではの情報統制システムが形成されている。本企画では、こうした現象を統合的に捉えるため、量的テキスト分析を用いた 3 つの実証研究を通じて、権威主義体制の中国におけるイデオロギー宣伝、外国に関する情報の報道、オンライン上での感情形成の実態を捉える。

報告①では、中国共産党が国内宣伝で用いてきた公定イデオロギーの長期的な時間軸における変化を、テキストデータに基づく計量分析によって明らかにする。これにより、現実政治に伴って生じる党の宣伝の変化とともに、党の宣伝に通底する普遍的な特性を特定する。この分析を通じて、本報告は、中国共産党という革命政権が非物質的価値に依拠する現代的な規定要因を体系的に論じる。

報告②では、『人民日報』の 1949 年以降の国際報道を対象に、テキストから中国の対外姿勢を量的に測定する「中国・外国関係指数（CFRI）」を提示する。半教師あり学習の手法を用いて、地理分類器と潜在的意味スケーリング（LSS）により、中国が各国に対していかなる姿勢を示してきたかを詳細に可視化し、外交ショック、国連総会投票、貿易・投資データとの整合性を検証する。本報告は、権威主義国家の外交言説研究に新しい計量的基準を提供し、公式言説と国際行動との関連を解明する。

報告③では、Weibo における国家寄りの愛国インフルエンサーとそのフォロワーの投稿を収集し、量的テキスト分析を通じて中国においてナショナリズム的感情が拡散する具体的な議題構造を明らかにする。また、ナショナリズム的

感情が特定の政治イベントや記念日に応じていかに増幅されるのかを実証的に分析する。ここから、ソーシャルメディア上における感情動員と国家の情報統制体制との補完関係を解明する。

3 つの報告はいずれも先端的な量的テキスト分析手法を用いた実証研究であり、権威主義国家におけるプロパガンダと情報統制の実態を体系的に把握するうえで重要な知見を提示する見込みである。このように、本企画は、比較政治、政治コミュニケーション、国際関係といった関連分野に対して幅広い理論的・方法論的貢献をもたらしうる。

開催概要

日時：2026 年 6 月 21 日(日) 13:30-15:30
場所： 日本大学
言語：日本語
企画：中国政治・メディア実証研究会（https://ecs-jp.netlify.app/）

プログラム

司会
工藤文（金沢大学）

報告
報告１　御器谷裕樹（慶應義塾大学・院）「中国共産党による公定イデオロギーの計量分析――習近平体制下の国内宣伝に注目して――」
報告２　周源（神戸大学）渡辺耕平（早稲田大学）黄柔翡（中央研究院）「The CFRI: A Text-Based Measure of China’s Bilateral Relations」
報告３ 于海春（北海道大学）「愛国インフルエンサーとオンラインナショナリズム―Weibo における感情動員を中心に―」

討論
鷲田任邦（東洋大学）
東島雅昌（東京大学）